

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 2 月 10 日 (2005.2.10)

【公表番号】特表 2000-511777(P2000-511777A)

【公表日】平成 12 年 9 月 12 日 (2000.9.12)

【出願番号】特願 平 10-500831

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

C 1 2 Q 1/68

//(C 1 2 N 15/09

C 1 2 R 1:01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 R 1:01

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 6 月 2 日 (2004.6.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年6月2日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示 平成10年特許願第500831号

2. 補正をする者

名 称 アボット・ラボラトリーズ

3. 代 理 人 東京都新宿区新宿1丁目1番11号 友泉新宿御苑ビル
(郵便番号 160-0022) 電話 (03)3354-8623
(6200) 弁理士 川 口 義 雄

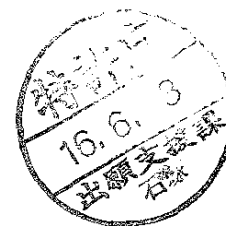


4. 補正命令の日付 自 発

5. 補正により増加する請求項の数 なし

6. 補正対象書類名 請求の範囲

7. 補正対象項目名 請求の範囲



8. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙の通り補正する。

方 式 査 査



[別 紙]

請 求 の 範 囲

1. 配列番号2および5、配列番号3および4、配列番号2、3および4、配列番号2、3および5、配列番号2、3、4および5、配列番号9および11、配列番号10および12、配列番号9、10および11、配列番号9、10および12、および配列番号9、10、11および12からなる群から選択されたオリゴヌクレオチドの組み合わせ。
2. 試験試料中の*C. pneumoniae*の存在を検出する方法であって、
 - a) 前記試験試料を請求の範囲第1項に記載のオリゴヌクレオチドと接触させるステップと、
 - b) 試験試料中に*C. pneumoniae*が存在する指標として、前記オリゴヌクレオチドと*C. pneumoniae*標的配列との間のハイブリダイゼーションを検出するステップとを含む方法。
3. 前記オリゴヌクレオチドを標識する請求の範囲第2項に記載の方法。
4. 試験試料中の*C. pneumoniae*の存在を検出する方法であって、
 - a) 核酸増幅試薬と、*C. pneumoniae*標的配列を含む試験試料と、配列番号2および5、配列番号3および4、配列番号2、3および4、配列番号2、3および5、配列番号2、3、4および5、配列番号9および11、配列番号10および12、配列番号9、10および11、配列番号9、10および12、および配列番号9、10、11および12からなる群から選択された少なくとも一つのプライマーと一つのプローブオリゴヌクレオチドとを含む反応混合物を形成するステップと、
 - b) 前記混合物を、前記標的配列と相補的な少なくとも一つの核酸配列を生成するハイブリダイゼーション条件におくステップと、
 - c) 前記プローブを前記標的配列と相補的な前記核酸とハイブリッド形成させて、前記プローブと前記核酸を含むハイブリッドを形成するステップと、

d) 前記試料中に *C. pneumoniae* が存在する指標として前記ハイブリッドを検出するステップと

を含む方法。

5. 前記プローブを標識する請求の範囲第4項に記載の方法。

6. 前記プローブを捕捉用標識で標識し、前記プライマーを検出用標識で標識する請求の範囲第4項に記載の方法。

7. 前記プローブを検出用標識で標識し、前記プライマーを捕捉用標識で標識する請求の範囲第4項に記載の方法。

8. a) 請求項1に記載のオリゴヌクレオチドの組合わせと

b) 増幅用試薬と

を含むキット。